

2021 とみにし 二年次 通信⑤

令和3年6月17日
2年次主任 小川 浩

梅雨の候、保護者のみなさまのおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今回は、2年次以降の学習方法等について保護者の方々にもご理解とご協力をいただくために、1年次の3月に実施したスタディ・サポートの分析結果を報告したいと思います。

まず、スタディ・サポートについて簡単にご説明いたします。進研記述模試が学力の定着度や応用力を確認するためのテストですが、スタディ・サポートは基礎学力の定着度を広く浅くチェックし、学習習慣が身についているか確認するためのテストです。模試の結果とスタディ・サポートの結果を照らし合わせることによって、長所や弱点が見えてくるので、今後の対策が取れるという利便性があります。では、早速スタディ・サポートの結果分析に入りたいと思います。

◇基礎学力の定着度(平均正答率)について

基礎学力の定着度(平均正答率)について同時期の2年次生第1回を本校の過年度と比較してみますと、次のような結果になります。

2021年度**国数英が49.7%**、2020年が45.2%、2019年が43.2%、2018年が46.1% です。
(現2年次生) (現3年次生) (大学1年生) (大学2年生)
2021年度の**国語は51.2%**、2020年が43.2%、2019年が46.1%、2018年が45.6% です。
2021年度の**数学は52.8%**、2020年が47.4%、2019年が42.1%、2018年が48.7% です。
2021年度の**英語は45.0%**、2020年が44.9%、2019年が41.1%、2018年が43.9% です。

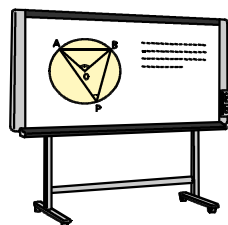
このことから平均正答率は過去三年間と比較してみると、どの教科も上回っています。このことについては実に喜ばしいことだといえます。始業が約2ヶ月遅れたにもかかわらず、正答率が高いということは、教師と生徒が2ヶ月の遅れを取り戻そうと必死になって頑張った成果だと考えます。それが、3学期の年度末の成績においても顕著に現れ、欠点を取った者が一人もいなかったことにつながっていると思います。

ところが、ところが、です！

2年次になって最初の定期考査である1学期中間考査の成績では、**欠点者の延べ数は87**にも及びます。これはとんでもない数字です。このうち2科目以上欠点を取っている生徒が18人、うち3科目以上がなんと、11人もいることに危機感を感じています。

学力が伸びていることは1年次通信でもお伝えしました。しかし、これで安心してしまおうと思わぬ落とし穴があることに気づきます。それは何かというと学習習慣です。成績が上がったのに家庭学習時間が減っているとどうなるか、ということです。学年が上がるにつれて習う量と難易度は必然的に上がってきますので、行き詰まってくることは目に見えています。学年が上がるにつれて、学習時間は1時間ずつ増やしていくというのが一般的な考え方です。では、昨年5月と今年3月に実施した平均学習時間の結果を見てみましょう。

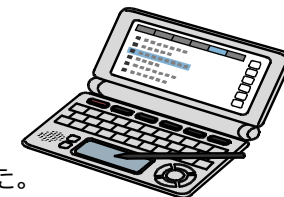
	1年1回 (昨年5月実施)	2年1回 (今年3月実施)	増減	今後の目標 (年次の平均)
平日	1時間45分	1時間15分	▼30分	2時間07分
休日	3時間	2時間29分	▼31分	3時間33分



2年次生全体の平均学習時間は平日で30分、休日で31分減っています。成績は伸びているにもかかわらず、学習時間は減っています。これは不思議な現象だといえますが、もう一つのデータをご覧ください。それは成績層別の学習時間です。

◇成績層別の学習時間について

学習時間を本校生徒の成績層別で比較してみると、次の表になります。成績上位～20%、20～50%、50～80%、80%～で分けました。



成績層(200人中)		1年1回	2年1回	増減	今後の目標
～20%(1～40位)	平日	1時間41分	1時間37分	▼4分	2時間31分
	休日	3時間5分	3時間19分	△14分	4時間18分
20～50%	平日	1時間48分	1時間23分	▼25分	2時間16分
	休日	3時間	2時間31分	▼29分	3時間39分
50～80%	平日	1時間42分	1時間7分	▼35分	2時間02分
	休日	3時間8分	2時間24分	▼44分	3時間34分
80%～	平日	1時間49分	54分	▼55分	2時間31分
	休日	2時間43分	1時間48分	▼55分	2時間42分

上の表から、入学当初は全体的な平均学習時間にそれほど差異は見られませんが、1年経った時点では、成績上位者は学習時間が確保され、減り幅も少なく、逆に休日は増えています。下位層になるほど減り幅は大きくなっていることがわかります。

このことから、**学習時間を確保している者は成績が伸び、安定した結果を出している**ということです。学習時間が少なくなればなるほど成績は下がるということがわかります。**家庭学習時間の確保が非常に重要な位置を占めている**ことがうかがえます。

以上のことから、成績下位層の生徒の家庭学習時間が大幅に減ったことが、欠点数の大幅増という結果につながった原因だと考えます。

現在学校は、高校総体終了後の**面談週間を実施**しています。担任とじっくり向き合って面談を受けています。ご家庭におかれましては、この危機的状況を打破すべく、お子様と話し合い、見守っていただければ幸いです。さらに、**2年次は緊急の年次集会**を11日(金)に開きました。「2年次になって油断している者が増えている。欠点数が多いからだ。各運動部も新チームのスタートを切った部がほとんどだ。キャプテンになった者もいるだろう。こういう節目に、自覚してチームのスタートダッシュを図り、また自己を見直す機会でもあるので、新たな気持ちで何事にも取り組んでいけ！」といった内容のことを生徒たちに伝えました。

生徒たちは気分も新たに、フレッシュなスタートを切っていることだと思います。成績が順調に伸びている生徒は今の調子で頑張ってください。伸び悩んだり、欠点を取っている生徒は学習方法の改善や物事の優先順位等も含めて生活全般を見直してみてください。本校は生徒一人ひとりに**システム手帳を配付**しています。**毎日手帳にメモ**することで、**自己管理能力も高まっていく**と思いますし、行動にもメリハリが出てくると思います。

◇1学期末考査は2週間前から準備する！

1学期末考査は7月5日(月)から始まります。この2週間余り学習時間をしっかりと確保して試験範囲を**最低3回見直**してください。早めの取りかかりと粘り強くやり抜く根気を期待しています。

※次回は来週末、スタディ・サポートの分析の続きをおこなう予定です！

